

「女子中高生夏の学校2018

～科学・技術・人との出会い～

参加報告

「夏学」は、女子中高生が「科学や技術にふれ」、その世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学や技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として開催されています。

今年の「夏学」（2018年8月9日～11日）には全国から117名の女子中高生、26名の大学生・大学院生スタッフ、理系分野の学協会、大学、高校および企業から200名以上が実行委員やプログラムスタッフとして参加し、国立女性教育会館にて開催されました。

分子生物学会は、以下の各位のご協力をいただき、会期2日目のサイエンスプログラムに参加しました。

〈ポスター・キャリア相談〉

『モデル動物を用いた不妊原因を 明らかにする基礎研究』

井関 祥子 会員

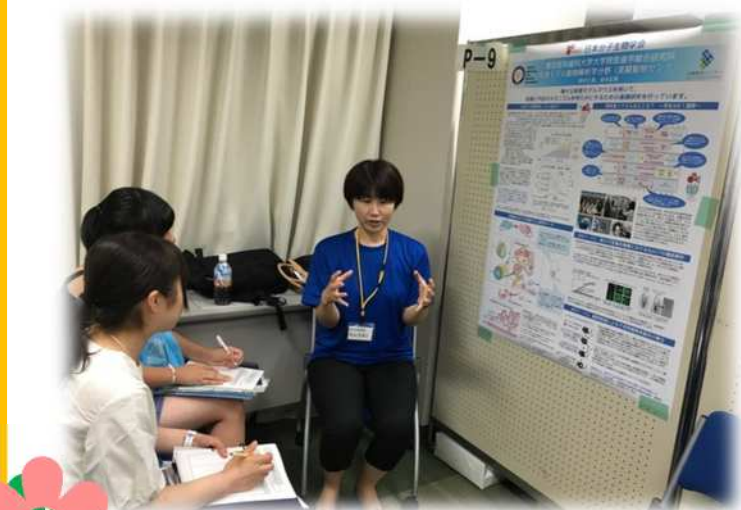
(キャリアパス委員/医科歯科大)

梶田美穂子 会員 (医科歯科大)

ポスター作成協力:

金井 正美 会員 (医科歯科大)

鈴木 仁美 氏 (医科歯科大)



一度参加された会員がその後も有志のリピーターとして熱心に活動を続けてくださるのもこのイベントの特徴です。理系進路に進んだ先輩と交流する様々な切り口のキャリア相談プログラムが会期を通じて行われる中、多様性に富んだキャリアの研究者が集う分子生物学会は、多彩なロールモデル情報の提供にも一役買っております。

なお、「夏学」はこれまで長らくJSTの助成金により国立女性教育会館が主催し、連絡会内のWGがその企画・運営に協力する形で続けられてきましたが、今回は学協会・企業の寄附金などにより、上記WGからなる女子中高生夏の学校実行委員会と国立女性教育会館との共催で行われました。今後もこの新体制で「夏学」の活動を継続するために必要なプロセスとして、主催団体の法人化手続きが進められていくとのことです。

皆さま、夏学2018へのご協力
ありがとうございました!

